

各関係機関の長 殿

福岡県病害虫防除所長

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、病害虫発生予報第 6 号 (9 月) を発表したの送付します。

平成 14 年度病害虫発生予報第 6 号 (9 月)
主要病害虫の発生現況及び予報の概要

【普通作物】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
普通期水稻	穂いもち 紋枯病 トビイロウンカ コブノメイガ 斑点米カメムシ類	並 やや少ない 並 やや少ない 並	並 やや少ない 並 やや少ない やや多い
大豆	ハスモンヨトウ 吸実性カメムシ類	並 並	やや多い 並

斑点米カメムシ類については、前年対比。

【普通作物 - 普通期水稻】

1 穂いもち

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8 月 5 半旬調査の結果、穂いもちの発病穂率は 0 . 1 % (平年：
0 . 1 %、前年：0 . 1 %)、発生ほ場率は 42 . 1 % (平年：
33 . 2 %、前年：33 . 3 %) であった。

イ また、葉いもちの発病株率は 3 . 2 % (平年：10 . 1 %、前年：
6 . 7 %)、発生ほ場率は 23 . 2 % (平年：48 . 3 %、前年：
31 . 8 %) と少なかった。

ウ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少
なく、日照時間は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 穂いもちは直接収量に影響を及ぼすので、出穂前後の基幹防除を徹
底する。

イ 防除薬剤については「平成14年度普通作物病害虫防除基準」を参照する（以下の病害虫についても同様）。

2 紋枯病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病株率は2.8%（平年：11.5%、前年：7.0%）、発生ほ場率は32.8%（平年：67.6%、前年：59.4%）であった。

イ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

出穂期以降も病斑の上位葉への進展がみられる場合には補正防除を行う。

3 トビイロウンカ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、10株当たり成幼虫数は3.7頭（平年：4.7頭、前年：1.8頭）、発生ほ場率は43.1%（平年：32.7%、前年：42.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

防除を行っていないほ場で、要防除水準（成幼虫数が100株当たり100頭）を超える場合は、早急に防除を実施する。

4 コブノメイガ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

8月5半旬調査の結果、食害株率は9.1%（平年：24.6%、前年：14.7%）、発生ほ場率は53.5%（平年：82.8%、前年：79.7%）であった。また、上位2葉の食害葉率は0.4%（平年：1.7%、前年：0.8%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

補正防除を行う場合は、収穫前使用日数を確認して薬剤を選定する。

5 斑点米カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の片振り20回すくい取り調査の結果、クモヘリカメムシ・ホソハリカメムシ・シラホシカメムシの3種は本田で1.2頭（前8か年平均：0.9頭、前年0.8頭）、畦畔で3.0頭（前7か年平均：3.5頭、前年：1.6頭）、雑草地で7.6頭（前7か年平均：16.1頭、前年：11.8頭）であった。

イ また、アカスジカスミカメとイネホソミドリカスミカメのカスミカメ類は本田で0.5頭（前年：0.03頭）、畦畔で10.3頭（前年：8.4頭）、雑草地で40.1頭（前年：49.2頭）であった。

ウ ミナミアオカメムシ・アオクサカメムシが早期水稻及び早植水稻の本

田で確認（ミナミアオカメムシは筑後地域で確認）され、一部多いほ場もあった。

エ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ミナミアオカメムシ（特殊報第1号参照）は斑点米産出能力が高いので、発生が多いほ場では2回防除を実施する。

イ 防除適期は穂揃期とその7～10日後である。

ウ 水田周辺にイネ科植物があるほ場や例年斑点米の発生が多い地域では、2回防除を徹底する。

エ 一部カスミカメ類の発生が多い地域があり、薬剤防除を行う場合は、畦畔及び雑草地などカメムシ類の発生源も含めた防除を行うとより効果が高い。

【普通作物 - 大豆】

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、25株当たりの幼虫数は8.1頭（前8か年平均：14.1頭、前年：9.2頭）であった。

イ 筑紫野市のフェロモントラップによる誘殺虫数は平年より多目に推移しており、8月1～5半旬の誘殺虫数も平年より多い916頭（平年：346頭、平成10年：733頭）。（図参照）

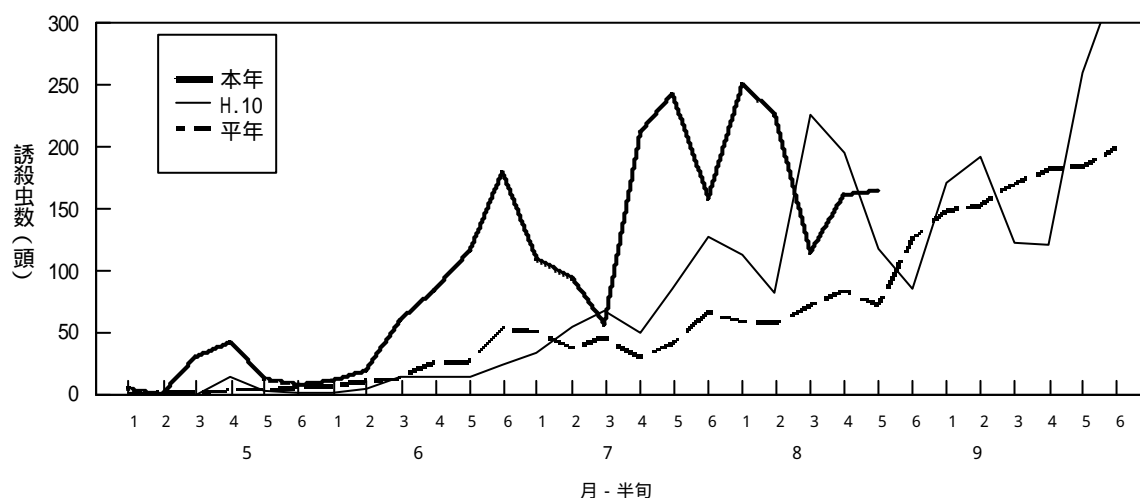
ウ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 分散前の若齢幼虫が群棲している白変葉は直ちに除去する。

イ 薬剤散布は防除効果の高い若齢幼虫期に実施する。

ウ フェロモントラップによる誘殺虫数を利用する場合は、誘殺ピークから10日目頃から早めに防除を開始する。



ハスモンヨトウのフェロモントラップによる誘殺虫数の推移（筑紫野市）

2 吸実性カメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、25株当たりの主要3種カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ）の成幼虫数は0.5頭（平年：0.6頭、前年：0.1頭）、発生ほ場率は23.5%（平年：27.8%、前年：11.8%）であった。

イ 気象予報では向こう一か月の平均気温は平年並と予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 幼莢期から子実肥大期における加害が大きいため、この時期に防除を実施する。なお、防除は着莢部に薬剤が十分付着するように散布する。

イ カメムシ類は広範囲に移動するので、薬剤散布はできるだけ広い地域を一斉に行うと効果が高い。

【果 樹】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
カンキツ	黒点病 ミカンハダニ	やや少ない 並	やや少ない 並
カキ	炭疽病 うどんこ病 フジコナカイガラムシ ハマキムシ類	やや少ない やや少ない 多い 並	やや少ない やや少ない 多い 並
カキ カンキツ類等	カメムシ類	並	並

【果 樹】

1 カンキツの黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査では、発病果率は1.9%（平年：3.7%、前年：9.5%）、発生ほ場率は35.0%（平年：42.7%、前年：44.4%）と少なかった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 伝染源である枯れ枝を除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mm毎に薬剤散布を行う。

ウ 極早生種は収穫期に入るので、農薬安全使用基準に留意して薬剤を選定する。

2 カキの炭疽病

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査では、発病果率は平均0.3%（平年：0.8%、前年：0.2%）、発生ほ場率は平均23.5%（平年：33.9%、前年：20.0%）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 樹冠内部の徒長枝に感染し、発病しやすいので、防除にあたっては薬液が樹冠内部にも十分かかるように丁寧に散布する。

イ 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので極力除去する。

ウ 早生種は収穫期に入るので、農薬安全使用基準に留意して薬剤を選定する。

3 カキのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査では寄生果率は平均23.3%（平年：5.3%、前年：7.4%）、発生ほ場率は平均88.2%（平年：49.7%、前年：93.3%）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

早生種は収穫期に入るので、本虫対象の防除はしない。

4 カキ、カンキツ等のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月2半旬のヒノキ球果のビーティング調査では、主要3種（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）の寄生頭数は、1地点当たり5.1頭（平年：8.4頭、前年：7.3頭）と少なかった。

イ 県内14カ所の8月2半旬のヒノキ球果における1果当たり口針鞘数は、平均で24.9本、被害球果率も100%であった。これは、調査を開始した6年間では最も多い。

ウ 8月上旬のヒノキ球果の口針鞘数とビーティング調査の結果から8月上旬にはすでにヒノキ樹上から離脱したと思われる。今後、ヒノキ樹上では幼虫の増殖はほとんど見込めない。

エ 8月2半旬のナシの調査では、被害果率は平均3.3%（平年：1.8%、前年：0%）で、多発生している。

オ 8月5半旬のカキの調査では、被害果率は平均3.6%（平年：1.4%、前年：0.1%）で、多発生している。

カ 筑紫野市吉木の予察灯・集合フェロモントラップにおける8月1半旬～5半旬までのカメムシ類の誘殺数は、下表のとおり8月3半旬までは多いが、それ以降は徐々に減少している。

キ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 予察灯及び集合フェロモンへの誘殺数は減ってきているが、ヒノキ球果はすでに餌として不適になっているため、果樹園へ散発的に飛来すると予想される。そのため、果樹園内をよく見回り、発生状況に応じて防除を行う。また、フジコナカイガラムシの発生が多いほ場では、クロロニコチニル系薬剤を用いて、カメムシとフジコナカイガラムシの同時防除を心懸ける。

イ 収穫期の果実もあるために、防除薬剤は平成14年度果樹病害虫防除基準を参照し、農薬安全使用基準（収穫前日数・使用回数）を遵守する。また、樹種によって使用できる薬剤が異なるので注意する。

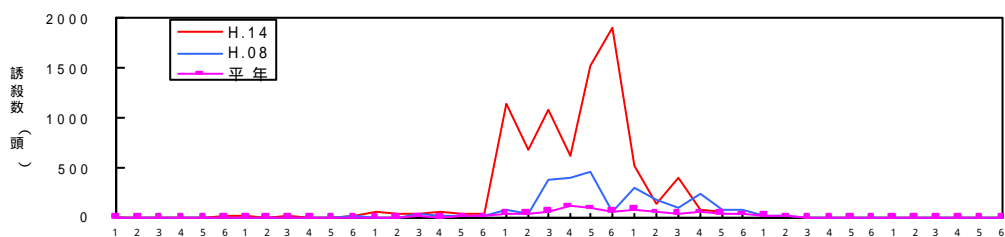
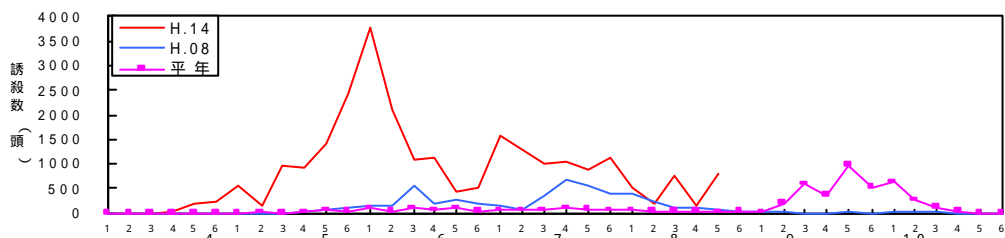
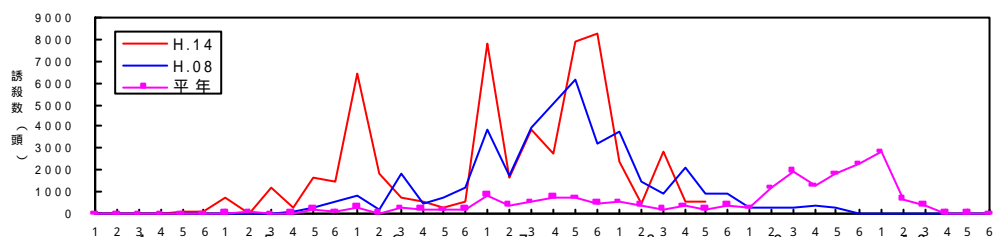
（平成14年7月18日付け果樹カメムシ類警報第1号を参照）

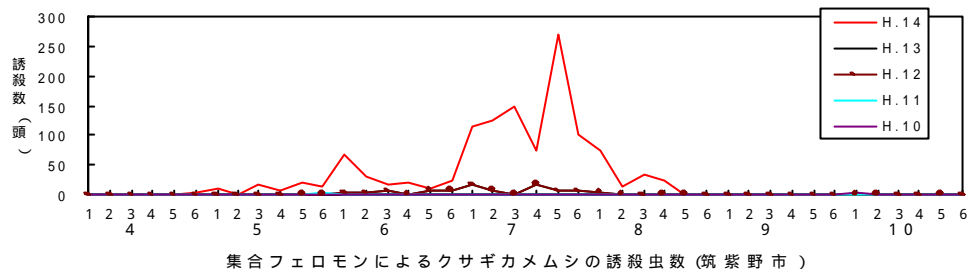
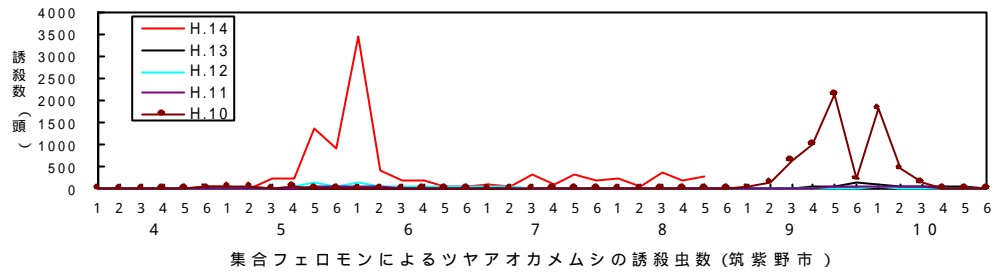
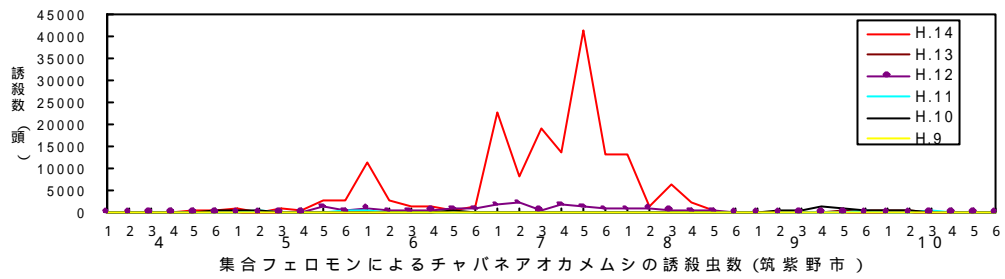
予察灯及び集合フェロモンによるカメムシ類の誘殺虫数（筑紫野市吉木）

調査時期	チャバネアオカメムシ		ツヤアオカメムシ		クサギカメムシ	
	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ	予察灯	集合フェロモントラップ
8月1半旬	2,400(567)	13,176(129)頭	507(60)	202(1)頭	522(76)	75(2)頭
2	473(403)	1,323(204)	190(42)	21(0)	132(53)	13(1)
3	2,869(229)	6,409(87)	772(45)	361(0)	408(37)	35(0)
4	543(362)	2,158(34)	159(46)	162(0)	68(50)	24(0)
5	531(248)	486(43)	779(28)	252(1)	3(35)	2(1)
合計	6,816(1,809)	23,552(497)	2,407(221)	998(2)	1,133(251)	149(4)

注1) 予察灯：20Wブラックライト

注2) ()は予察灯は10カ年、集合フェロモンは5カ年平均の誘殺虫数





【茶】

作物名	病虫害名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
茶	炭疽病 カンザワハダニ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	やや少ない やや少ない やや少ない 並 並 やや少ない	やや少ない やや少ない 並 並 並 やや少ない

平年値（過去10年間の平均）がない場合は、前年までの平均値を用いた。

【茶】

1 炭疽病

(1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや少なく、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査では、1m²当たり病葉数は平均0.1葉（平年：2.6葉、前年：0.2葉）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 整枝後の残葉での発生に注意し、萌芽から1～2葉期までに薬剤防除を実施する。

イ 本病原菌の各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用しない。

ウ 防除薬剤は「平成14年度茶・いぐさ病虫害防除基準」を参照する。農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める（この項は以下の病虫害についても同様）。

2 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬の調査では、寄生葉率は平均0.7%（平年：2.7%、前年：2.7%）、50葉当たり虫数は平均1.0頭（平年：8.0頭、前年：5.0頭）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア ほ場によって発生にばらつきがあるので、発生状況をよく調べ、寄生葉率が2%以上の場合は防除を行う。

イ 各種薬剤に対するハダニの感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用しない。

3 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

ア 発生時期：平年・前年並

イ 発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月1半旬～5半旬までのフェロモントラップによる誘殺数は、筑後市では134頭（前8か年平均：294頭、前年：199頭）、八女市では137頭（前年：135頭）であった。

イ 8月5半旬の調査では、1㎡当たり巻葉数は平均0.3葉（平年：0.5葉、前年：0.4葉）であった。

ウ 気象予報では、9月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉がみられたら直ちに防除を行う。

イ フェロモントラップによる調査では、成虫の発蛾最盛期は8月6半旬～9月2半旬頃と思われる。ほ場内の成虫の発生に注意し、発蛾最盛期の7日後に防除を行う。

4 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬のたたき落とし法による調査では、平均0.3頭（平年：0.3頭、前年：0.4頭）の発生であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

発生のみられないほ場もあるので、萌芽期にたたき落とし法（A4版白紙上）で発生状況を調べ、4頭以上発生している場合は防除を行う。

5 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬のたたき落とし法による調査では、平均1.8頭（平年：3.1頭、前年：5.0頭）、発生ほ場率は80.8%（前年：88.0%）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並で、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

たたき落とし法（A4版白紙上）で5頭以上発生しているほ場も見られるので、発生状況をよく調べ、発生の多い場合は防除を行う。

【野 菜】

作物名	病害虫名	発生現況 (平年比)	発生予想 (平年比)
アスパラガス	斑点病 ハダニ類 アブラムシ類 アザミウマ類 ヨトウ・タバコガ類	少ない 並 並 並 並	少ない 並 並 並 並
ネギ	シロイチモジヨトウ	やや多い	やや多い
野菜共通	ハスモンヨトウ	やや多い	やや多い

・アスパラガスは、前々年からの調査のため、前年値との比較である。

1 アスパラガスの斑点病

(1) 予報の内容

発生量：前々年、前年より少ない

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、発病株率は平均1.1%（前々年：51.7%、前年：10.6%）であった。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 過繁茂になると多発するので、整枝を的確に行いほ場内の通風をよくする。

イ 発病部位はできる限り取り除き、薬剤による防除を徹底する。

2 アスパラガスのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：前々年、前年並

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の結果、寄生株率は平均25.6%（前々年：35%、前年：32.8%）であった。一部のほ場では多発している。

イ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

3 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年、前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 8月5半旬調査の被害、寄生株率は3.5%（前年：2.3%、平年：0.6%）であった。

イ 朝倉町長淵のフェロモントラップによる誘殺虫数は、7月5半旬～8月2半旬で176頭（平年：208.2頭、前年：143頭）、8月2半旬～8月5半旬で171頭（平年：173.6頭、前年：142頭）であった。

ウ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

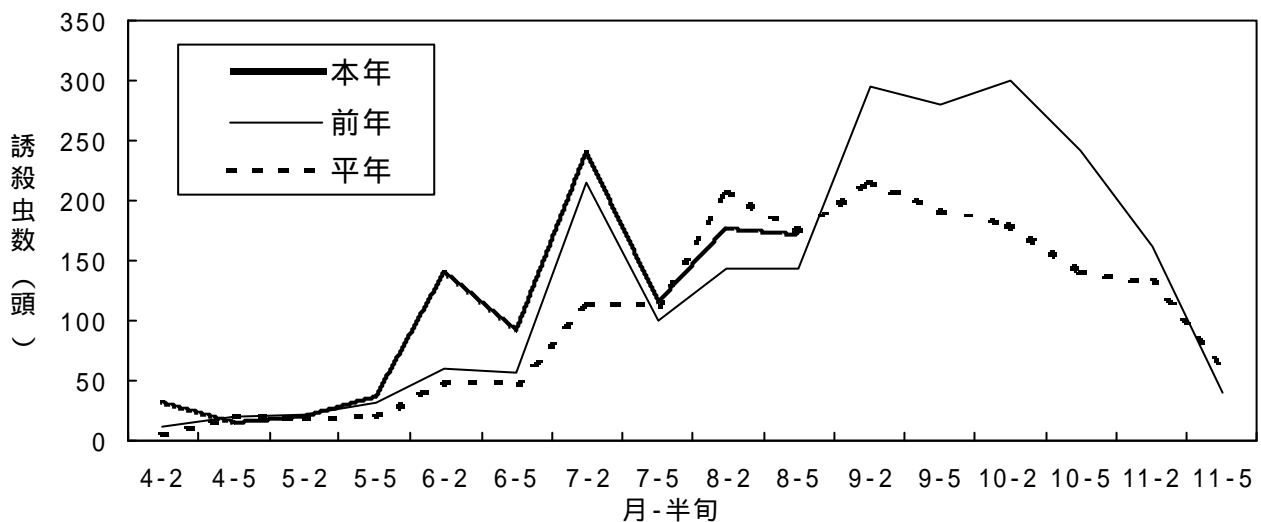
ア 例年8月以降に誘殺虫数が増え被害も増大するので、ほ場での発生状況をよく観察する。また発生予察情報や当所のホームページに掲載しているフェロモントラップの誘殺状況などをみて、今後の発生動向に十分注意する。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は孵化直後の幼虫をねらって行う。

ウ 施設栽培では、成虫の飛び込み防止のため4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。

エ 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

オ 各種薬剤に対する感受性が低下するのを避けるため、同一系統薬剤を連続して使用せず、数系統の薬剤を組み込んだロ-テ-ション散布を行う。



フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの誘殺数の推移 (朝倉町長湊)

4 野菜共通のハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多い

(2) 予報の根拠

ア 筑紫野市のフェロモントラップによる8月1半旬～5半旬の誘殺虫数は、916頭(平年：345.5頭、平成10年：733頭)と平年より多く、多発生年の平成10年よりも多い。

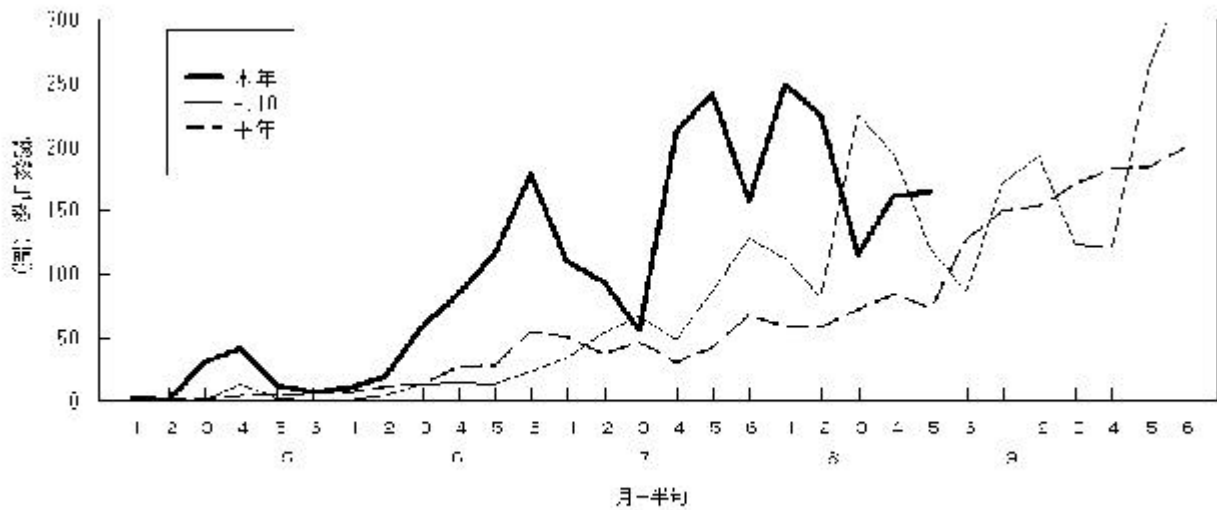
イ アスパラガスでは、8月5半旬の若茎への寄生株率が2.8%(前年：5%)であった。

ウ 大豆では7月下旬に県内各地で白変葉の被害が発生し、8月1日に注意報が発令されたが、現在のところフェロモントラップの誘殺状況に見合うほどの被害は発生していない。

エ 気象予報では、9月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少ないと予想されている。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア これから定植時期となる露地野菜や果菜類の苗などを加害するおそれがあるので、ほ場での発生状況をよく観察する。また発生予察情報や当所のホームページに掲載しているフェロモントラップの誘殺状況などをみて、今後の発生動向に十分注意する。
- イ 幼虫は集団となって葉を食害し、その後周囲に分散するので、初期の食害発生に注意し、卵塊や幼虫は見つけしだい捕殺する。ハウスでは、支柱やベンチの裏等に卵塊を産み付けることがあるので注意する。
- ウ 老齢幼虫に対しては薬剤の効果が高いので、早期発見に努め、防除効果の高い若齢幼虫期に防除を徹底する。
- エ ナス、トマト等の果菜類では、葉以外にも花蕾や果実を食害する場合があるので注意する。
- オ ほ場周辺の雑草は増殖源になるので、丁寧に除去する。
- カ 防除薬剤については、平成14年度野菜病害虫防除基準を参照のこと。
- キ 農薬安全使用基準を守り、危被害防止に努める。



ナス・トマトのフェロモン・トラップによる誘殺頭数の推移（筑前野市）

9月の気象予報（1か月）

（予報期間 8月24日～9月23日）

2002年8月23日
福岡管区气象台発表

【概要】

向こう1か月の平均気温は平年並、降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い可能性が大きいでしょう。

【要素別確率】

（単位％）

要素	低い （少ない）	平年並	高い （多い）
気温	30	50	20
降水量	40	40	20
日照時間	20	40	40

- < 1週目の予報 > 8月24日～8月30日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 2週目の予報 > 8月31日～9月6日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。
- < 3～4週目の予報 > 9月7日～9月20日
この期間の平均気温は、平年並の可能性が大きいでしょう。

参考資料

福岡における平年値

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間と1週目、2週目、3～4週目の平均気温

向こう1か月			平均気温（ ）		
平均気温（ ）	降水量(mm)	日照時間(h)	1週目	2週目	3-4週目
25.1	197.3	172.5	27.0	26.0	24.2

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除について、ホームページとテレホンサービスでお知らせしています。アドレス及び番号は下記の通りです。

ホームページアドレス

www.jppn.ne.jp/fukuoka.

電子メールアドレス

kfok0301@sp.jppn.ne.jp

テレホンサービス

092-928-6401（普通作・イグサ）

092-928-6402（果樹）

092-928-6403（野菜・茶）

